

県中地域定住・二地域居住推進連絡協議会

事務局／福島県県中地方振興局 企画商工部

〒963-8540 福島県郡山市麓山1-1-1

TEL 024-935-1323



ふくしま移住計画 ウェブサイト
<http://fukushima-ijyu.com/>



東北新幹線なら
東京⇄郡山 80分
仙台⇄郡山 40分

福島県 県中地域



福島と真ん中移住ガイド

ふくしま移住計画

ほどよいイナカが、
住みやすい。

vol.
2

photo: ひまわり畑 (郡山市)

移住までのステップ



step1: 移住の目的を考えよう

何を求めて移住するのかによって選ぶ地域は大きく変わります。農業をしてみたい、環境の良い場所に住みたい、子どもの教育を考えて…など。どんな地域でどんな生活を送りたいのか、よく考えてみるのが大切です。

step2: 家族・パートナーに相談しよう

移住の目的やメリット・デメリットなどを家族やパートナーとよく相談しましょう。また、相談することによって移住後の生活スタイルを具体的にイメージすることができます。



step3: 情報を集めて目的に合う地域を選ぼう

移住の目的が決まったら、交通の便や気候、地域性、仕事や子どもの教育など、様々な条件を考慮して、いくつかの地域を重点的に調べましょう。Webサイトはもちろん、移住セミナーなどに参加してみるのもおすすめです。

step4: 現地まで実際に行ってみよう

気になる地域は実際に目で見ると一番。体験ツアーや移住体験住宅を利用できることもあります。現地の雰囲気や生活環境を体験し、自分の想像とかけ離れていないか、確認しましょう。



step5: 移住先で仕事を探そう

生活していくうえで、まずは仕事重要です。移住相談窓口やハローワークに問い合わせるのもよいでしょう。また、農業を始めたいなら、各地域の就農相談窓口などに相談しましょう。

step6: 住む場所を探そう

住みたい地域で目的に合った住居を探しましょう。中古住宅は補修が必要な場合もあるので、必ず現地確認を。



step7: さあ、いよいよ移住!

ご近所にあいさつしたり、地域の行事に参加したりして、地域との交流を深めていきましょう。

移住に興味があるけど、どこに相談したらいいかわからない…

私におまかせください!

福島県移住コーディネーター
(県中地域担当)

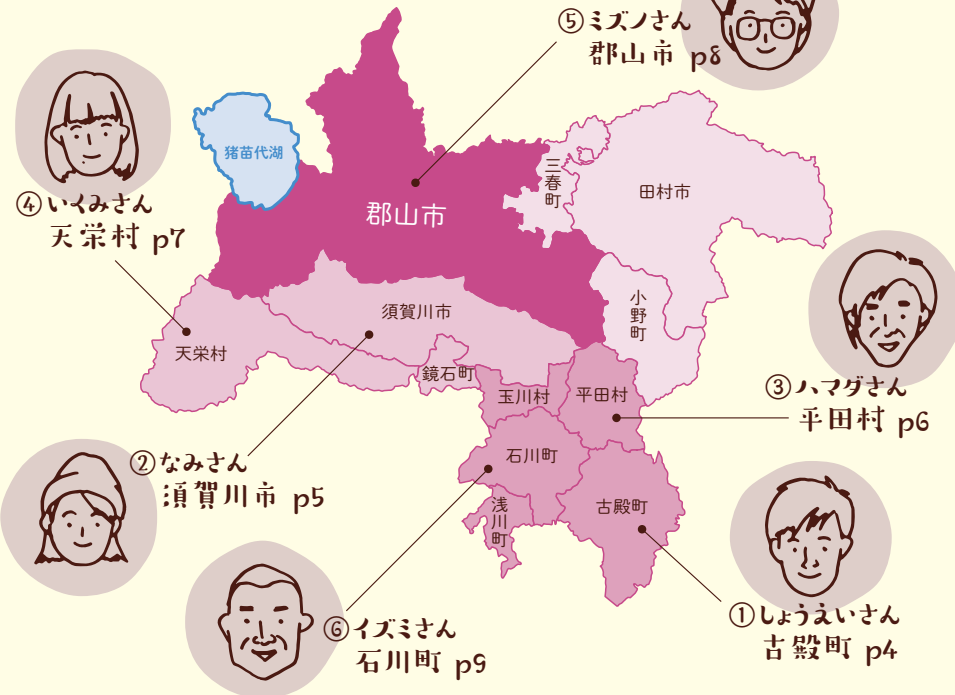
よもぎた まもる
蓬田 守です。



私は、県中地域の小野町の在住で、長年、移住希望者と地域の人々の橋渡し役を担う「福島ふるさと暮らし案内人」として活動してきました。移住には不安がつきもの。そんなときに親身に相談に乗ってくれるところがあると嬉しいし、心強いですね。移住後の友達づくり・仲間づくりのサポートにも力を入れていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

福島県県中地方振興局：TEL 024-935-1323

移住者の声、あつめました!



移住者インタビューGO!▶

続
「ふくしま人、かく語りき。」

移住者インタビュー

移住に必要なのは、
勇気・軸・逃げ道！
地域の人々の期待が支え。

第7
ふくしま人



鈴木翔瑛さん(古殿町)

愛知県出身の鈴木さんは、鳥取県内の大学を卒業後、地域おこし協力隊として2018年4月に古殿町に移住しました。現在は古殿町内の飲食店を巡るスタンプラリーの企画や、ご当地サンドイッチの開発など古殿町の活性化につながる活動をしています。

Q.移住のきっかけを教えてください。

2017年の9月に「ふくしまふるさとワーキングホリデー」を活用し、福島県田村市に2週間滞在しました。東日本大震災で被災したエリアを実際に訪れるツアーで福島の実状に触れる機会もありました。地域おこし協力隊のきっかけは、ワーキングホリデーの滞在中に、地域の方から「地域おこし協力隊になってみたい?」というお誘いを受けました。いろいろな人に出会えることに魅力を感じて、地域おこし協力隊に応募しました。福島県内を考えていましたが、古殿町に行く決め手となったのは、ウェブ上で「越代のサクラ」を見つけたことです。写真を見た30分後には古殿町の地域おこし協力隊に応募していました。「越代のサクラ」に人生を動かされましたね(笑)



Q.移住する上で不安だったことはありますか？

なかったですね。全国で一番人口が少ない県の鳥取県で4年間生活できたのだから、日本中どこでも生きていけるという自信を持っていました。大学時代に身に付けた知識を活かしながら新しいことをやっていこうと思っていました。

Q.移住してよかったことを教えてください。

地域の方々が福島県外から来ている自分に期待してくれていることですね。古殿町に来てすぐは、不規則な日々を送ったり、やりたいと思っていることと町が求めていることにギャップがあったりと悩んでしまうこともありましたが、それでも地域の方々の期待に応えたいという思いから頑張ることができました。

Q.今後やっていきたいことはありますか？

若い世代同士のコミュニティを構築したいと考えています。古殿町特産の杉や古殿町内の空き家の活用について互いにアイデアを出し合いながら取り組んでいきたいです。

Q.若い世代が移住をするうえで必要なことは何だと思いますか？

勇気と軸と逃げ道だと思います。私は地元で過ごして、地元で人生を終えてしまうことに不安を感じていたため、勇気を出して移住することを決めました。現在は、この場所でやっていくんだという軸を持って活動しています。でも、逃げ道も必要です。もし定住することが決められていたなら、地域おこし協力隊には応募していませんでした。最長3年の任期を終えた後は古殿町に住み続けてもいいし、ほかの地域に行ってもいいという自由があるから移住できたというのも事実ですね。



第8
ふくしま人

自分の行動が誰かに届いて、
その人の次のアクションに
繋がってほしい。

武藤菜美さん
(須賀川市)



須賀川市出身の武藤さんは、郡山市にある日本調理技術専門学校でお菓子作りの基礎を学んだ後、東京の洋菓子店に就職。2011年に帰郷し、アイシングクッキーの魅力に引き込まれ、技術を習得。アイシングクッキー教室の開催やイベントへの出店を経て、現在は郡山市内のベーグル店に勤務、製造・商品開発に携わるなど、日々スキルを磨いています。

Q.帰郷された理由・きっかけを教えてください。

東日本大震災が起きた時、転職を考えたタイミングでちょうど福島にいました。周りの友達も福島に戻ってくる人がいたので、震災に対するネガティブな感情はそこまで強くありませんでした。東京にいた2年間も、2ヶ月に1回は帰省するくらい地元が好きでした。東京での生活は、時間の流れの早さと、人の多さに疲れてしまいました。一度出たからこそ、地元の良さを痛感しましたね。でも、専門学校を卒業するタイミングでは、絶対地元を出てやるって時は思っていました。(笑)

Q.アイシングクッキーの魅力を教えてください。

アイシングクッキーは、普通のクッキーより作るのに手間がかかって、値段も高価なものになります。暮らしに絶対に必要なものでもないのに、贈り物だったり記念日に購入することが多いです。でも、アイシングクッキーがあること

によって、普段の生活や日常が少しだけ彩り豊かになる。そこが魅力だと思っています。

Q.アイシングクッキーでどんな活動をされていたのですか？

地元のまちづくり会社さんとのつながりで、レンタルキッチンを利用し活動をスタートしました。当時は、県内でアイシングクッキーをやっている人はほぼいなかったもので、テレビにも取り上げて頂きました。ただ、私は、作った商品が皆さんに喜んでもらえるのが好きで、自分自身を売り出すことや製造以外の業務がそこまで得意ではなかったもので、一人で起業する大変さを感じました。現在は、アイシングクッキーの活動はお休み中ですが、郡山市の「暮らしづくりビレッジ」でベーグルの製造・商品開発をしています。昔からパン作りもやっていたので、社会人として現場でもう一度修行中です。

Q.ところで、こちらの場所は何ですか？

ここは、須賀川の地域情報をメインに発信する今年1月に開局したコミュニティFM「ウルトラFM」の収録スタジオです。現在はここで毎週水曜日のお昼に、パーソナリティをしています。レンタルキッチンでお世話になった「こぶろ須賀川」さんからお声がけ頂きました。東京で働いていた洋菓子店の厨房ではいつもラジオを流していたこともあり、自分でも仕事をしている時は作業中は必ずラジオを聴いていたので、ラジオが大好きだったので、喋る仕事は未経験でしたがやってみよう!という感じです。(笑)15人いるパーソナリティの中で、私が平成生まれで最年少なので、若い同世代にもラジオに興味を持ってもらいたいなと思っています。



Q.今後の目標を教えてください。

クッキーだけでなく、パンやベーグルなど小麦で作った商品を、皆さんにお届けしたいです。根本には、「自分の行動が誰かに届いて、その人のアクションに繋がってほしい」、という想いがあります。私の場合は、ラジオやお菓子作りを通して、皆さんの日常に楽しみや彩りを、ひとつでも増やせたらいいなと思っています。よって、普段の生活や日常が少しだけ彩り豊かになる。そこが魅力だと思っています。

第9 ふくしま人

ヨソモノがどこまでできるか。 自らがモデルケースとなって 地域活性化の可能性を探る。

浜田健史さん(平田村)

兵庫県出身の浜田さんは、現在の地域おこし協力隊に就任するまで、大手IT企業、ベンチャー企業を経験し、その後、独立し地域活性化に関わる事業を展開しながら、多摩大学総合研究所にて創業支援や地域ビジネスでの支援に携わっていました。2018年春より平田村に移住し、地域に新しい風を吹かせるべく様々な角度から企画・実践に挑戦しています。

Q.地域おこし協力隊のきっかけはなんですか？

平田村との関わりは、東京での私の活動を見た「道の駅ひらた」の高野駅長が、直接連絡をくれたことが始まりです。その連絡がきっかけで、平田村をフィールドに多摩大学の地域創生のプロジェクトが行われました。プロジェクトは無事に終わったのですが、その後、平田村が「医食同源」プロジェクトに取り組むことになり、また高野駅長から連絡がありました。完全な一本釣りです。(笑)

Q.なぜ、移住を決心したのですか？

元々、大学のプロジェクトで関わっていましたが、ある時、平田村で高野駅長がふと放った言葉が印象的でした。「あの田んぼのあぜ道で、白むすびを食べるのが最高なんだ。」これを体験するには、地域に飛び込まないと味わえないと、確信し、平田村へ移住することを決めました。Tシャツのロゴの「ひらたさん」は、その経験を元にデザインしたんです。

Q.浜田さんがいらっしゃる「ヨロズヤ」とは何ですか？

人と人がつながるコミュニティシーンを、色々あると思うんです。たとえば、近所の井戸端会議とか。もう一つのたとえとして、西部劇のガンマンが集う酒場とか。酒場には、仕事を求めるガンマン、仕事を頼む依頼人、そして酒場のマスターがいますよね。酒場は、お酒を飲む場所だけ



じゃなくて、ビジネスマッチングの場でもあり、地域の困りごとを聞く御用聞きの間でもあるんです。「ヨロズヤ」は、何かが生まれる場所、マッチングの場にしたいんです。

Q.平田村のポテンシャルは？

まずは、移住定住の促進です。そして、地域資源の活用。平田村には、中学校2校、幼稚園2校が廃校です。そして、事業承継です。5年から10年で近隣の商店は、ほとんど廃業になると思っています。ただ、視点を変えたとそれだけ、ビジネスの場があると思うんです。

Q.地域の方々のやりたいこと、浜田さんがやりたいこと必ずしも一致しないと思うのですが…？

道の駅の6次化プロジェクトとして、村内で採れるたんぼを商品化しました。これは生産者の方の思いを形にしたものです。今後は、プロダクトアウトではなく、マーケットイン、顧客目線の商品開発ができる人材を育成したいです。



Q.これからやりたいことはありますか？

やりたいことたくさんあるんですが、Tシャツを売りたいです。(笑)というのも「地域ファン」のことなんですが、1枚5千円のTシャツを買って頂きます。そのうち材料費などを抜いた金額を「投資」として、プロジェクト資金とします。そこから何かやりたいときの資金にします。今後、やりたいことは廃校のリノベーションですね。宿泊できる施設に改修してe-スポーツの大会だったり、映画鑑賞会とかのイベントをやりたいです。

第10 ふくしま人

地域とのつながりを大切に、 理想の暮らしを実現。

芳賀育実さん(天栄村)



鮫川村出身の芳賀さんは、元・天栄村地域おこし協力隊で天栄3大ブランド農産物の天栄米・天栄長ねぎ・天栄ヤーコンのPRや地域イベントの企画運営に携わり、2018年4月から村初めてとなる移住コーディネーターとして、村内に定住しながら、移住促進の活動に取り組んでいます。

Q.協力隊になるきっかけを教えてください。

大学に進学するタイミングで、東京の大学を選びました。当時は、東京の大きなキャンパスで、芝生でみんなで丸くなってサンドイッチを食べる、という理想を思い描いていました。でも実際は、意外と狭くて理想と現実のギャップを思い知りました。(笑)卒業後約9年間、都内の企業で働いていました。その中で、東日本大震災が起きました。当時は福島だけでなく東北の食材も店頭から姿を消したのを覚えています。それから4年ほど同じ企業で働いていたのですが、日々の生活の中で次第に東北が忘れられている感覚が強くなりました。帰省するとテレビは、復興の話題。でも、東京では、3.11の直前にしか取り上げられ無いところにギャップを感じたんです。「福島が忘れられている。」このまま仕事を続けていいのだろうか。当時は30歳で、転職を体力のあるうちにしてみようとも思っていました。自分のやりたいことを仕事にしようと考えた結果、地域おこし協力隊を選びました。



Q.天栄村を選んだ理由を教えてください。

私が転職活動を始めたのが7月で、その時期だと大体の協力隊募集活動が終わってしまうんですね。なので、翌年の募集まで時間をかけて協力隊を受入れている自治体を探しました。私は農業に関わる活動がしたかったのですが、当時農業をテーマにした福島県内の協力隊は多

くはありませんでした。その中で見つけた天栄村は、農産物の振興に力を入れていると感じ、自分も活躍できるのではと思ったのが天栄村を選んだ理由です。協力隊に応募するときに、一番考えていたことは、どんな地域で働きたいかということ。その時に、あんなに出なかった地元の風景を思い出したんです。人口3,500人くらいの規模で、小さいコミュニティで深く関われるところ。プライベートも地域密着というところが私にとっては、懐かし心地よかったです。

Q.定住を決めたきっかけは？

地域おこし協力隊になってからは、東京に戻ることは考えていませんでした。資金的な面もありましたが、広い一軒家で生活していたので、もうあのワンルームには戻るの考えられませんでした。一番大きかったのは、協力隊の活動をこれからも続けたい、という思いが強かったからです。

Q.天栄村での暮らしのいいところ、困っているところを教えてください。

いい所は、人付き合いが近い所でしょうか。移住される方にとっては田舎暮らしの大変な所かもしれませんが、私自身は天栄村に来てから本当にご近所さんに助けていただきました。皆さん本当に優しく、暮らしの事や野菜作りの事でいつも相談にのってもらっています。困ったことは、車の運転が苦手なのであまり運転したくないのですが、車が無いと遠出できないことですね。あと、天栄村ならではの事は、冬の除雪作業が大変です。公道までは自分で除雪しなくちゃいけないので、降ったときは、3時間かけて除雪した日もありました。(笑)

Q.移住コーディネーターの仕事と今後やってみたいことを教えてください。

空き家バンクの物件情報の収集や調査、借りたい人と貸したい人の相談窓口、HPでの情報発信を行っています。最近では、移住希望者の案内で、北海道から移住したい人やニュージーランドの方が移住したいなどの相談もありますし、今年移住予定の子育て世帯もいらっやいます。今後は、移住者のアフターフォローの体制を整えていきたいです。





写真右がミズノさん▼

さまざまな経験を得てからの Uターンで手に入れた、 フリーランスという生き方。

第11
ふくしま人

ミズノエリカさん(郡山市)

白河市出身のミズノエリカさん。県外のカフェ、ゲストハウス、レストランの勤務を経て2018年に福島にUターンし独立。友人が営む喫茶店と一緒に運営しながら、仕事をどうデザインするか?自分を生かす仕事とは?を追究しながら食をツールに、フリーランスでフードディレクターとして福島県を中心に活動中です。

Q.フードディレクターとはどんなお仕事ですか?

飲食店、ゲストハウス、コミュニティプレスを運営する事業者さんと、フードのプロデュースや食をテーマにしたワークショップ、厨房機材の導入に関するアドバイスなど、幅広く対応しています。

Q.これまでの経歴を教えてください。

調理系の専門学校に入学してアルバイトとしてコーヒESHOPで働いていました。その後正社員として、新潟店舗に2年半、郡山店舗に2年半勤務しました。マネージャーとして人材育成にも携っていたのですが、22歳の時に更なるステップアップため転職を決意しました。たまたま求人を出していた栃木県のゲストハウスのオーナーに連絡を取り、直接お話をしたところその場で意気投合し、内定をいただきました。

Q.フリーランスのきっかけを教えてください。

ゲストハウスで働いていた際に、自分のできること、やりたいことを見つめ直すきっかけがありました。立ち止まって考えた時に、これまで培ってきたノウハウを活かした仕事がしたいと思うようになり、フリーランスになることを決めました。

Q.フリーランスとしてお忙しいのですが…?

よく周りに止められるのですが、あえて一日オフの日を作ら

ないようにしています。(笑)でも、自分にはこのスタイルがあっていたんです。仕事のスタイル、ライフスタイルでも、とにかく「やってみないと分からない」と思っています。リフレッシュ方法は、普段のシェアオフィスから環境を変えて仕事をすることでリフレッシュになっていますね。仕事自体がリフレッシュになっている場合もあって、ゲストハウス「ひととき」さんのお仕事ですごく刺激をもらっています。

Q.具体的なお仕事の内容を教えてください。

先日、3周年を迎えた「OBROSS COFFEE」さんのフードプロデュースをさせていただきました。地元の和菓子屋さんの粒あんとな須塩原にあるパン屋さんのプレツツェルを使った「あんバターサンド」なのですが、品切れの日があるほど好評を頂いています。県外でも、宮城県や長野県からもお仕事の依頼を頂きます。SNSのおかげで仕事の幅が広がっていると思います。

Q.フリーランスとして心がけていることを教えてください。

自分と似たような人を見つけると、ライフスタイルや食生活、アイデアを考える場所など、話を聞きたいと思ったら直接連絡して会いに行くようにしています。話を聞かずに自然と仕事に繋がるケースが多いです。

Q.今後の目標はありますか?

地方に人がいないのは、魅力がないからだと思います。東京だけではなく、地方でやれることもあるはずなのに、地方だからと言い訳するのはつまらないと思うんです。競合がいなかったり地方ならではの強みもあるのでチャレンジの可能性はかなりあると思います。自分のやり方はどんどん真似して欲しいと思っているので、若い人のロールモデルになりたいですね。



- ミズノエリカさん Instagram <https://www.instagram.com/meshibito/>
- OBROSS COFFEE <https://obrossoffee.jp/>



第12
ふくしま人

持続可能な生活を 地域の農家とともに。

泉浩樹さん(石川町)



石川町出身の泉浩樹さん。長年、プロのフリーカメラマンとして都内で生活されていました。2014年に地元石川町にUターンし、ソマチット(株)を共同で設立。代表としてカフェを営む傍ら、首都圏で以前から仕事をしてきた撮影業を現在も続けていらっしゃいます。

Q.Uターンしたきっかけを教えてください。

震災をきっかけに東京での生活に違和感を感じて、地に足をつけた生活をしたいと思いました。自宅に隣接する空き家になっていた祖母の商店をリノベーションして、2016年9月に農村食堂「里のカフェ」をオープンしました。実家が農家で私が長男だったので、いずれは戻らなくてはいけないと思っていました。

Q.「里のカフェ」とはどんなお店ですか?

継続可能な社会を目指すことを目的に設立した「ソマチット株式会社」の事業で、地元の旬の本来の野菜や果物を使った手作りメニューを提供しています。「山賊カレー」や「里山うどん」、期間限定の季節のパフェは若い世代の方からマダムまで女性を中心に好評頂いております。ランチには、近隣地元農家の協力を得て、野菜を中心とした「おかずBAR」はおもてなしとしてサービスでご用意しています。共同経営するメンバーの共通項に「地域の農家さんを元気にしていきたい」という想いがあります。地域の野菜をつかって、地域内でお金を循環させられればと思っています。

Q.以前は東京でカメラマンをされていたとのことですが?

元々、農業系の学校で勉強をしていたのですが、20歳の時にアメリカへ農業と造園業をしながら数年間滞在しました。日本に戻ってきて、飲食業界のアルバイトの傍ら興味のあったカメラマンのアシスタントとして撮影業に飛び込みました。映画、CM、プロモーションビデオ、ドキュメンタリーなど

の仕事をしていただいていた。仕事柄移動が多く、恐らく50カ国以上は回っていたと思います。現在も東京での仕事を頂いています。お店と農業もあるので、タイミングを見ながらですが、自分の今までのスキルを活かせればと思います。地元PRの撮影活動もしています。

Q.共同経営するメンバーは?

Uターン後に知り合った地元農協で働く高原さんと、同じ地元Uターン組の元デザイナーの現在自然農を営む山田さん。偶然出会ったマネジメントも出来る料理人の小野さんと運営しています。小野さんとの出会いは、郡山市の食器屋さんでの立ち話からです。現在は、実質的な経営と料理は小野さんが担ってくれていて、今となっては欠かせないメンバーです。

Q.お店には、どんなお客さんがいらっしゃるのですか?

おかげさまで口コミのみでにぎわっております。最近ですが、遠くは横浜からパフェを食べに3人できたという方もいらっしゃいました。SNSを見てくる人も多くて、広報らしい広報はしていません。ただ、認知度も高まっている分、プレッシャーもあります。喜んでもらえるようにクオリティを維持するための努力をスタッフは欠かせません。



Q.移住先としての地方のよさは??

人間関係が大事だと思います。そしてそれが全てです。地元の農家さんが「これ使って」といって、野菜を持ってきてくれることも多々あります。人と人のつながりがあるので、だれでも受け入れられるわけではないと思います。「移住して来る人」の覚悟も必要だと思いますし、もちろん受け入れる側のハードソフト両面の準備も必要です。

Q.今後やっていきたいことは?

海外に行くことが多かったのですが、一人で旅行にいったときの心細さが分かります。そんなときに、現地の方に温かく迎えられ、伝統料理を頂くと、嬉しくなります。インバウンド(訪日外国人旅行者)への需要が高まっていますので、外国人を受け入れられるような体制づくりをしていきたいです。新しくお店には設置した加工場と梱包場があります。そこで焼いた焼き菓子やパンなどを充実させていきたいです。また、海外向けに商品開発、販路拡大もしていきたいと思っています。

活用しよう! 制度と施設



コワーキングスペース

コワーキングスペースとは、創業を目指す人や起業したばかりの人、そしてベテランの経営者などが気軽に集い、勉強会や情報交換会、イベントなどを開催する場所です。

co-ba koriyama

	名称	問い合わせ先	TEL	料金等
郡山市	co-ba koriyama	一般社団法人グロウイングクラウド	024-922-1377	一般会員8,000円(月額) 1Day利用1,000円
郡山市	コワーキングスペースコオリヤマ	NPO法人アイカラー福島	024-953-8057	月額会員12,000円
郡山市	福島コトひらく	NPO法人コースター	024-983-1157	月額会員10,000円 1Day利用1,000円
田村市	テラス石森	一般社団法人Switch	0247-61-7575	15,000円(月額) 1,000円(日額)
平田村	ヨロズヤ	株式会社たまらば	0247-57-7153	9,900円(月額) 2,000円(日額)

農業

国 農業次世代人材育成資金

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農前の研修を後押しする資金(準備型/2年以内)および就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始型/5年以内)を交付します。



空き家バンク



移住地で、自分の城となる住まい。せっかく移住するのなら、こだわりのお気に入り物件を見つけてのびのびと生活したいですね。事前の情報集めが何より重要な移住候補地での物件探し。ポイントを絞って効率的に探しましょう!



最大
250万円
補助!!



福島県 リフォーム補助

空き家のリフォーム・ハウスクリーニングに最大250万円を補助します!
対象/県内の空き家を改修する県外からの移住者

須賀川市 田村市 三春町 引っ越し補助

新婚世帯の引っ越しをサポート! 最大30万円を補助します!
対象/平成31年3月1日~令和2年2月末日*までに婚姻届を提出した34歳以下の夫婦かつ30年1月1日~12月31日までの合計所得金額が340万円未満の夫婦
※自治体によって対象期間が異なります。



新婚世帯の引っ越しに

最大
30万円
補助



参考サイト
「みはる暮らし」

コミュニティ 友達がなくても安心!

郡山市 はやまーゼ教室

新しく郡山市へ転入された女性を対象に、「郡山を知ってもらうこと」「仲間づくり」を目的とした教室を開催しています。
郡山市立中央公民館 TEL 024-934-1212



天栄村 湯本塾実行委員会

湯本地区のよさを再認識するとともに都市部からの移住・定住の促進を目指し、湯本を元気にすることを目的としたプロジェクトです。
天栄村役場湯本支所 TEL 0248-84-2111



小野町 移住者交流会

町外からの移住者を対象に、地元食材を使った家庭料理を楽しむ交流会を開いています。
小野町ふるさと暮らし支援センター TEL 0247-61-5504



各市町村の補助制度一覧



(令和元年6月1日現在)

市町村名	問い合わせ先	電話番号	しごと支援				住まい支援				子育て支援			体験	
			コワーキングスペース	創業支援	空き店舗	奨学金補助	空き家バンク	引越し補助	住宅取得補助	空き家改修補助	出産祝い金	医療費助成	保育料支援	お試し住宅	農家民宿・民泊
郡山市	政策開発課	024-924-2021	○	○							○	○			
須賀川市	観光交流課	0248-88-9145		○							○	○		○	
田村市	経営戦略室	0247-81-2117	○	○	○					○	○	○	○	○	
鏡石町	総務課	0248-62-2117		○	○					○	○	○			
天栄村	企画政策課	0248-82-2333								○	○	○	○	○	
石川町	地域づくり推進課	0247-26-9111								○	○	○		○	
玉川村	総務課	0247-57-3101								○	○	○			
平田村	総務課	0247-55-3111	○							○	○	○		○	
浅川町	総務課	0247-36-4121								○	○	○			
古殿町	産業振興課	0247-53-4620								○	○	○		○	
三春町	企画政策課	0247-62-1122								○	○	○			
小野町	企画政策課	0247-72-6939								○	○	○		○	

※詳しい内容、条件等は各市町村へお問い合わせください。
 ※医療費助成は、県内全域で実施(18歳以下医療費無料)
 ※空き家改修補助は、県内全域で実施(福島県空き家・ふるさと復興支援事業)。
 ※住宅取得補助は、市町村の独自補助があり、県による上乗せ補助があります(来て ふくしま 住宅取得支援事業)。



現地案内について

プチ移住
してみたい!

お試し住宅



田村市 お試しチャレンジハウス
料金/1日300円
滞在期間/2日~3ヶ月。更新も可能。
問い合わせ先/
田村市経営戦略室 TEL 0247-81-2117



天栄村 短期滞在支援住宅
料金/無料
滞在期間/日帰り~2週間
問い合わせ先/
天栄村ふるさと子ども夢学校推進協議会
TEL 0248-94-2232



まずは、ふくしまに行ってみよう!

交通費補助



福島県
対象者/県外在住の方で福島県への移住を希望する方
補助額/定額(現住所により異なります)*東京都の場合は8,000円



須賀川市
対象者/市内事業者での就職活動を行った市外居住の方
補助額/交通費:上限2万円 宿泊費:上限1泊6千円(5泊分まで)



物件とか仕事とか地域のこととか、いろいろ
知りたいけどどこに行けばいいかわからない

オーガメイト型 現地案内

料金/無料(現地までの交通費、食事代、宿泊費は自己負担)
日程/ご希望の日程・内容を聞き取って設定いたします
お問い合わせ/福島県 県中地方振興局 024-935-1323

ご相談はこちら

都内での
ご相談は

東京でのご相談は、有楽町にある「福が満開、福しま暮らし情報センター」にて相談員が常駐しておりますので、移住に向けた地域情報の収集や、お仕事・お住まいに関する悩みを相談したい方、まずはお気軽にご訪問ください!

福が満開、福しま暮らし情報センター
(千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階
NPO法人ふるさと回帰支援センター内)
TEL 03-6551-2989
E-mail: fukushima@furusatokaiki.net



福島県では、「仕事・働き方」「関係人口」など様々なテーマで移住セミナーを定期的で開催しています。移住に向けた仲間づくりやリアルな情報を知りたい方はぜひご参加ください!

セミナー
開催



イベント情報は
こちら!



現地の
ご案内は

福島県 県中地域で、お待ちしております。

現地でのご案内は私にお任せください!
県中地方振興局でも、様々なテーマでのセミナーの開催や、実際に現地案内をしております。お気軽にお問い合わせください!

福島県移住コーディネーター
(県中地域担当)

蓬田 守 よもぎた まる

蓬田さんのFacebook

福島県県中地方振興局
企画商工部 地域づくり・商工労政課
TEL 024-935-1323
E-mail: kenchu.kikakushoukou@pref.fukushima.lg.jp
http://fukushima-ijyu.com

